

小学六年
適性検査A
—— 解答と解説

(例)							
		い	え	の	思	に	
私	る	な	心	い	つ	小	
は	。	が	の	浮	い	説	
、		ら	動	か	て	を	
文		読	き	べ	、	読	
章		む	を	て	文	む	
A		こ	自	同	章	と	
の		と	分	じ	A	き	
筆		が	の	状	で	に	
者		必	気	況	は	読	
が		要	持	に	、	み	
示		で	ち	身	物	手	
す		あ	に	を	語	が	
よ		る	引	置	世	意	
う		と	き	き	界	識	
に		述	く	、	を	す	
、		べ	ら	作	具	べ	
語		ら	べ	中	体	き	
ら		れ	、	人	的	こ	
れ		て	考	物	に	と	

100 20

問題四 (例)			
と	の	い	自
考	考	と	分
え	え	は	の
て	が	思	望
い	絶	わ	ま
る	対	な	な
。	だ	い	い
	と	が	読
	主	、	み
	張	作	方
70	す	者	に
	る	だ	耐
	わ	か	え
	け	ら	な
	に	と	け
	も	い	れ
	い	っ	ば
	か	て	な
	な	自	ら
	い	分	な

60 40 20

問題一	問題二	問題三
エ	自己開示	最初自分と異なる最後らぬ人たち
(完答)		

問題五

こ	と	由	な	に	分	で	理		い	こ	を	だ	き	る
と	し	と	い	な	の	表	由	小	ろ	ん	す	け	る	こ
を	、	は	か	り	好	現	が	説	い	で	る	を	よ	と
大	そ	い	と	、	き	し	あ	を	ろ	場	の	も	う	を
切	の	え	思	読	き	て	っ	書	な	面	で	と	に	、
に	う	、	う	む	ら	い	た	く	こ	や	は	に	し	語
し	え	ま	か	楽	い	る	は	人	と	登	な	一	た	ら
な	で	ず	ら	し	だ	か	ず	に	を	場	く	度	い	れ
が	自	は	だ	さ	け	を	だ	は	考	人	、	読	と	る
ら	分	そ	。	は	で	意	。	、	え	物	自	ん	思	ま
小	が	れ	受	よ	は	識	そ	そ	な	の	分	だ	う	ま
説	ど	を	け	り	な	し	れ	れ	が	心	か	だ	。	に
を	う	素	取	大	い	な	を	を	ら	の	ら	け	自	読
楽	感	直	り	き	基	が	ど	書	読	動	作	で	分	み
し	じ	に	方	く	準	ら	の	き	ん	き	品	表	の	取
み	る	受	は	な	で	読	よ	た	で	を	に	面	感	る
た	か	け	読	る	読	め	う	い	み	想	深	的	覚	こ
い	と	取	者	の	む	ば	な	と	た	像	く	な	や	と
。	い	ろ	の	で	こ	、	方	思	い	し	入	理	常	が
	う	う	自	は	と	自	法	う	。	、	り	解	識	で

440

400

300

200

(配点)

{ 問題一～問題三…各10点
 問題四…20点
 問題五…50点
 問題三…完全解答
 } 計100点

【解説】

問題一

B1

情報を獲得する

関係づけ

置き換え

I をふくむ一文は「私たちの世界には善良で I なる人間ばかりいるわけではないので、当然のことです」となっています。「善良」と関係があり、直前の文に書かれた「感心するにはほど遠い、道徳のお手本にはとうていふさわしくないふるまい」の反対に当たる内容が考えられるので、エ「品行方正」が入ります。

問題二

B1

情報を獲得する

具体化

関係づけ

文章Bの筆者が、作中人物のふるまいを通じて自分の思いを表現することをどのような言葉で表現しているかを問う問題です。作者の表現したいことは作中人物の言動として表現されますが、そこには作者の「書かずにはおれない」「読んでもらいたい」という気持ちがかめられています。このことを、文章Bの筆者は2ページ下段で「自己開示」と表現しています。

問題三

B1

情報を獲得する

関係づけ

置き換え

文章Aの筆者は、「自分自身の価値観や主張を、安易に読みこもうとする」読者の読み方を「控えなくてはなりません」と指摘しています。それは、作者が描いた世界を語られるままに受け止める態度ではないからです。このことは、文章Bで「予想外の反応」として説明されており、そのような反応を見せる読者のことは1ページ下段で「自分とは異なる属性を持ち、異なる考えがあり、異なる人生を歩む、見知らぬ人たち」と説明されています。

問題四

B2

具体化

関係づけ

置き換え

文章Bの筆者が、「批評するために小説を切り刻んで、自分が使いたいところだけ部分的に使うためにやってきた人」に対してどのような考えを持っているかを意識して本文を読み進めます。2ページ下段に「小説家は作品をどう読まれようが耐えなくてはいけない」という批判に対して「それは……おかしいと思う……」という考えが述べられています。続く部分でさらに「でもだからといって、作者だから自分の考えだけが絶対だとは、自分がいやだと思う読み方を全部否定していいのだとは思えません」とも書かれています。この部分を参考にしてまとめましょう。

※この問題では、次のポイントを中心に見ます。

内容等について（12点）

誤り1か所につき、4点の減点となります。誤りは、答案用紙に波線で指摘をしています。

・「自分の望まない読み方」に対して作者として疑問を持っている点、「自分がいやだと思う読み方」も受け入れなければならない点の両方を文章中の表現を使って説明しているか

・内容が過不足なく書かれているか

・文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか

・同内容の不必要な反復がないか

形式等について（8点）

内容等が0点でない場合、次のような視点で採点します。1つ目の誤りは4点の減点となります。2つ目以降の誤りは1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に直線で指摘をしています。

- ・誤字や脱字がないか
- ・文法的な誤りがないか
- ・語句や言葉の使い方に誤りがないか
- ・常体、敬体の混在がないか
- ・不適切な話し言葉の使用がないか
- ・消し残りなどで字が見えづらくないか
- ・正しいマス目の使い方であらうか
- ・一マスに一文字が書かれているか

問題五 C3 理由 置き換え 推論

文章Aと文章Bに書かれたことを確認して、今後出会うべく小説をどのように読みたいかということについてあなたの考えを述べる問題です。

第一段落では、読み手が小説を読む際に意識しておくべきことについて、文章Aの筆者の考えをまとめます。

文章Aでは、小説を読むうえで読者がどのようなことに気を付けて文章に立ち向かうべきかということが説明されています。1 ページ下段の最後の三つの段落を参考にしてまとめるとよいでしょう。

第二段落では、文章Aと文章Bのいずれかの筆者の考えをふまえて、あなたの考えを書きます。たとえば、「私たち読者は、小説に語られることを、語られるままに受けとめる気概を持たなければなりません」という文章Aの筆者の意見に同意できるところがあれば、表面的な理解にとどまらず、素直に作品を受け止めて自分なりに解釈したいという方向で自分の意見をまとめることができます。また、「一度出版された本はもう読者一人ひとりのもので、自分の手を離れている」という文章Bの筆

者の意見に同意できることがあれば、自分で理由を考え、作者も思いつかなかったような自分独自の楽しみ方をしたいという形で自分の意見をまとめることができます。

第三段落では、第二段落で述べたことについての理由を書きます。

※四百四十字未満の場合、採点対象としません。

※以下のポイントを中心に見ます。

内容等について (40点)

誤り1か所につき、5点の減点となります。誤りは、答案用紙に波線で指摘をしています。

第一段落について

・第一段落では、読み手が小説を読む際に意識しておくべきことについて、文章Aの筆者の考えをまとめます。

・内容が過不足なく書かれているか

・文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか

・同内容の不必要な反復がないか

第二段落について

・文章Aと文章Bのいずれかの筆者の考えをふまえて、自分が小説を読む際に気をつけたいことについて自分の考えが書かれているか

・内容が過不足なく書かれているか

・文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか

・同内容の不必要な反復がないか

第三段落について

・第二段落に書いたことについての理由が書かれているか

- ・ 内容が過不足なく書かれているか
- ・ 文の論理構成、主語や述語の関係は正しいか、一文が途中で終わっていないか

- ・ 同内容の不必要な反復がないか

形式等について(10点)

内容等が0点でない場合、次のような視点で採点します。1つ目の誤りは5点の減点となります。2つ目以降の誤りは1か所につき、1点の減点となります。誤りは、答案用紙に直線で指摘をしています。

- ・ 誤字や脱字がないか
- ・ 文法的な誤りがないか
- ・ 語句や言葉の使い方に誤りがないか
- ・ 常体、敬体の混在がないか
- ・ 不適切な話し言葉の使用がないか
- ・ 消し残りなどで字が見えづらないか
- ・ 原稿用紙の使い方に誤りがないか
- ・ 指定された段落数で書かれているか